

朝がまた来る 町に息吹が宿るころ

夢みる子どもたちが寝返りをうつころ、カラカラと牛乳ビンが音を立て荷台にのる。新聞配達のパイクが手際よく宅地を縫うように走っていく。昨夜からの上野焼の煙が、まだ煙突から中空へとたなびいている。まちの朝はとかく早い。暗いうちから確



かな鼓動を響かせ、動き出しているのだ。木々の揺らぎ、鳥の声、人の足音、その一つ一つがゆっくりとまちに息吹をそそぐ。福智山麓から昇る朝日が、雲を抜き、まちの隅々まで届くと、乗客が一人待つ駅のホームに始発電車が滑り込んだ。「いってらっしゃい」どこかで子どもを送り出す声が聞こえた。目覚めたまちは人をやさしく包み込み、足取りを軽くする。やがて、それぞれの1日が過ぎ、西の空を茜色に染め日が沈んでいく。そして、朝がまた来る。昨日以上にさわやかな朝、今日はどんな一日なのだろう。

6時半、セリ開始のベルが突き刺すように鳴った。数か所から一斉に声上がる。弾き飛ばされそうな勢いの売り声、大勢に囲まれるので取り仕切るセリ人の声はみんな野太い。頭には世界の経済動向を視野に入れた品種ごとの相場がインプットされている。セリで最も重要なのは値を告げるタイミング。しかし、あまりにも早くテンポが良いので、素人では聞き分けがつかない。各コーナーとも数分もかからず、呪文のようなかけ声のなか、ひしめく魚たちが次々とさばかれていった。セリが一段落した8時半、積み荷を終えた車が、市場を後に各店へと向かう。手から手へ：海の幸はたくさん



→セリは買い受け人の腕の見せ所でもある。目利きとタイミングがセリの決め手。↑場内の一角では、旬の青果もたくさん扱われていた。



まりの気配がする。喧嘩のなか品定めをする人たちの緊張感が一気に高まった。市場登録の買い受け人は305人、経験とカンによつて「買い」の判断がなされていく。

の相場がインプットされている。セリで最も重要なのは値を告げるタイミング。しかし、あまりにも早くテンポが良いので、素人では聞き分けがつかない。各コーナーとも数分もかからず、呪文のようなかけ声のなか、ひしめく魚たちが次々とさばかれていった。セリが一段落した8時半、積み荷を終えた車が、市場を後に各店へと向かう。手から手へ：海の幸はたくさん

場内たぎる熱気と活気



セリの時間になると駐車場が車でうまった(写真上)。場内のテナントにもわかに活気づく。飲食店・惣菜店など10軒があり、早い店では5時ごろから開店している。



喧嘩のなかにある緊張感
セリには、弾き飛ばすような勢いがある

太い声と指の動きで言い値が飛び交う。帽子の前に付けてあるプレートが買い受け人の登録番号、落札と同時にチェックされる。

